

# 総合人間科学 倫理学

## 1-1 構成員

平成29年3月31日現在

教授	1人
病院教授	0人
准教授	0人
病院准教授	0人
講師(うち病院籍)	0人 (0人)
病院講師	0人
助教(うち病院籍)	0人 (0人)
診療助教	0人
特任教員(特任教授、特任准教授、特任助教を含む)	0人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生(うち他講座から)	0人 (0人)
研究生	2人
外国人客員研究員	0人
技術職員(教務職員を含む)	0人
その他(技術補佐員等)	0人
合 計	3人

## 1-2 教員の異動状況

森下直貴 教授 2002年11月～現職

## 2 講座等が行っている研究・開発等

1	(1)研究・開発等のテーマ名	老成学の研究
	(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略	コミュニティ形成型の老人像を軸とする総合的な老人観の確立。
	(3)前年度までの状況	老成学の構想を国内外で発表し、関係者と議論を積み重ねるとともに、現場を視察してきた。
	(4)当該年度内の進捗	老人における働・病・性・死に焦点を合わせ、また、社会保障制度・労働市場・コミュニティ形成・死生観という領域の枠組みを設定する中で、研究を進めてきた。
	(5)翌年度の方針と予想	アンケート調査やフィールドワークを通じて焦点や領域ごとに細部を詰める。
2	(1)研究・開発等のテーマ名	近代日本哲学の研究
	(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略	西周、井上哲次郎、西田幾多郎等の研究を通じて、システム理論の視点から近代日本哲学史を新たに組み換え直す。
	(3)前年度までの状況	井上哲次郎における形而上学の研究。
	(4)当該年度内の進捗	井上の前に西周を位置づけることごとによって、明治哲学と江戸時代の儒教との関連を把握することができた。
	(5)翌年度の方針と予想	大正期の思想を取り上げる。

## 3 論文, 症例報告, 著書等

	平成28年度
(1)原著論文数(うち和文のもの)	6編 ( 3編 )
そのインパクトファクターの合計	0.000
(2)論文形式のプロシーディングズ及びレター	0編
そのインパクトファクターの合計	0.000
(3)総説数(うち和文のもの)	0編 ( 0編 )
そのインパクトファクターの合計	0.000
(4)著書数(うち和文のもの)	2編 ( 1編 )
(5)症例報告数(うち和文のもの)	0編 ( 0編 )
そのインパクトファクターの合計	0.000

(1) 原著論文

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	Naoki Morishita, Bioethics Diversity and a possible "Global Bioethics": Reflections from the social systemic perspective.Reprinted to International Journal of Bioethics and Ethics of Science, 2016:27(4), ESKA, chapter 3(pp.55-72).Reprinted from Fritz JAHR (1895-1953)From the Origin of Bioethics to Integrative bioethics.	0.000
2.	森下直貴, 西周の〈区別-連結〉の哲学—「実証主義」と「天の思想」を包括する体系.『浜松医科大学紀要一般教育』31:1-21, 2017.3	0.000
3.	森下直貴, <垂直のコミュニケーション>という希望—最晩年期における「老の中の死」の意味.『死生学年報 2017』東洋英和女学院大学死生学研究所、リトン.	0.000
4.	森下直貴, <デジタル化>とその倫理問題—科学技術倫理学の四つの基本課題.『生存科学』27-1, 107-127, 2016.9.	0.000

論文数(A)小計 4 うち和文 3 IF小計 0.000

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

論文数(B)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	Nishikawa Tetsu, Morishita Naoki., Consciousness Investigation of Persons Attending Memorial Services for Laboratory Animals, JAS4QoL - Volume 3(1) (March, 2017).	0.000
2.	Gordana Pelčić, Silvana Karačić, G.L.Mikirtichian, Olga I. Kubar, Frank J. Leavitt, Michael Cheng-tek Tai, Morishita Naoki, Suzana Vuletić, Luka Tomašević, Religious exception for vaccination or religious excuses for avoiding vaccination, Croatian medical Journal, 2016.57:516-21, 2017.3.	0.000

論文数(C)小計 2 うち和文 0 IF小計 0.000

(4) 著書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

著書数(A)小計 0 うち和文 0

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

著書数(B)小計 0 うち和文 0

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

著者: タイトル, 出版社名, 巻, 初頁-終頁(頁数), 発行年.		IF
1.	尾関周二他編『哲学中辞典』知泉書館、2016.11、vii+1390p、項目執筆: 生命倫理、安楽死/尊厳死、自己決定、脳死/臓器移植、哲学的人間学、パーソン論、バイオテクノロジー、ゲーレン.	
2.	Christian Byk and Hans-Martin Sass (eds.), Fritz JAHR (1895-1953)From the Origin of Bioethics to Integrative bioethics (MA Editions-ESKA, 2016.10), Chapter10, Naoki Morishita, Bioethics Diversity and a possible "Global Bioethics": Reflections from the social systemic perspective.	

著書数(C)小計 2 うち和文 1

4-1 特許等の知的財産権の取得状況

	平成28年度
特許等取得数(出願中含む)	0 件

4-2 薬剤、医療機器等の実用化、認証、承認、製品化、販売等の状況

	平成28年度
実用化、認証、承認、製品化、販売数	0 件

## 5 医学研究費取得状況

	平成28年度	
	件数	金額 (万円未満四捨五入)
(1) 科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)	1件	360万円
(2) 厚生労働科学研究費	0件	0万円
(3) 日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成	0件	0万円
(4) 科学技術振興機構(JST)による研究助成	0件	0万円
(5) 他政府機関による研究助成	0件	0万円
(6) 財団助成金	1件	50万円
(7) 受託研究または共同研究	0件	0万円
(8) 奨学寄附金	0件	0万円

### (1) 科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)

1.	基盤研究(B)特設分野 ネオ・ジェロントロジー:15KT0005、「老成学」の基盤構築—<媒介的共働>による持続可能社会をめざして、研究代表者:森下直貴(浜松医科大学教授)、平成27年度~平成30年度:1360万円(直接経費)、平成28年度:360万円(同右)	360万円
----	--	-------

### (6) 財団助成金

1.	生存科学研究所 自主研究 老人世代によるコミュニティ形成の研究、研究代表者、平成28年度50万円	50万円
----	--	------

## 6 大型プロジェクトの代表、総括

### 7 学会活動

	(1) 国際学会	(2) 国内学会
1) 基調講演・招待講演回数	0件	1件
2) シンポジウム発表数	1件	1件
3) 学会座長回数	0件	1件
4) 学会開催回数	0件	1件
5) 学会役員等回数	0件	3件
6) 一般演題発表数	0件	

#### (1) 国際学会等開催・参加

##### 2) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

1.	森下直貴、西周における<理>の転回—近代日本「哲学」の形而上学的次元、国際シンポジウム/東アジアにおける近代哲学の生成と展開、厦門大学、中国、2016.10.1.
----	---

#### (2) 国内学会の開催・参加

##### 1) 学会における特別講演・招待講演

1.	森下直貴、老人世代の働き方、死生学研究所・連続講座、東洋英和女学院大学大学院校舎、2017.1.14
----	--

##### 2) シンポジウム発表

1.	森下直貴、「科学技術倫理学」の新たなフレーム、公募シンポジウム科学技術倫理学とは何か、日本生命倫理学会、2016.12.3 100名
----	--

##### 3) 座長をした学会名

1.	森下直貴、日本医学哲学・倫理学会、兵庫県立看護大学、2016.11.5
----	-------------------------------------

##### 4) 主催した学会名

1.	森下直貴、<老成学>の試み:コミュニティ関与型老人観の提唱、公募シンポジウム<老成学>の試み、日本生命倫理学会、2016.12.4、30名
----	---

5) 役職についている国内学会名とその役割

1.	森下直貴、日本生命倫理学会 評議員、編集委員
2.	森下直貴、中部生命倫理研究会 会長
3.	森下直貴、日本哲学会 理事

8 学術雑誌の編集への貢献

	(1)外国	(2)国内
学術雑誌編集数(レフリー数は除く)	0 件	0 件

(3)国内外の英文雑誌のレフリー

1.	TETSUGAKU 1回(独文)
----	------------------

9 共同研究の実施状況

	平成28年度
(1)国際共同研究	0 件
(2)国内共同研究	0 件
(3)学内共同研究	0 件

10 産学共同研究

	平成28年度
産学共同研究	0 件

11 受賞

12 新聞, 雑誌, インターネット等による報道

13 その他の業績